



報道関係者各位

2010年6月1日

## 創造的なコルクの用途にハイライト MoMA デザインストアの「Destination: Portugal」展

2010年6月1日東京 - ポルトガルコルク工業会（APCOR）は、ニューヨークのデザインアイコン、ニューヨーク近代美術館（MoMA）のミュージアムショップ東京店と提携し、来店者に創造的デザイン製品の上を歩き回ってもらいたいと考えています。これは、モダンで現代的なポルトガル工芸品やデザインに焦点を当てた「Destination: Portugal」製品展で、2010年6月3日（木）から7月14日（水）まで東京青山のMoMA デザインストアで開催されます。

ポルトガルと日本は歴史的に深い関係を持っており、「パン」<sup>♪</sup>、「コップ」<sup>♪</sup>、「おんぶ」など身近にポルトガル語を語源とする言葉も少なくありません。反面、ポルトガルは、優れたデザイナー、アーティスト、工芸家が、様々な自然素材などを使い、洗練された美しいデザインを創り出す国でもあることは意外に知られていません。

その最たるものが、ポルトガルのシンボルとも言えるコルクを使ったデザインです。コルクは床材、装飾材、ワインの栓などの産業製品をはじめ、コンテンポラリーな美術品まで幅広い分野に、驚くほど独創的な使われ方をしています。「Destination: Portugal」では、食器やアクセサリーから傘まで、コルクを使った創造的なデザインをハイライトし、コルク製のフローリングやディスプレイも紹介しています。

APCOR のカルロス・デ・ヘスス代表は以下のように述べています。「このたび先進気鋭のポルトガルデザイナーの作品が MoMA デザインストアで紹介されることになりました。この展示に、現代的な天然コルク床、インテリア製品、壁材など提供し、ポルトガルデザインの違った一面を日本の皆さまにご紹介したいと思います。日本は欧州以外で初めてコルク床を導入した国です。しかし、その後の天然コルクのデザイン進化には、きっと驚かれるのではないかと思います。現代のコルク製品は洗練された美しさを持つと同時に環境に優しく、それ自体がすばらしいデザイン製品としての地位を確立していると言えます。

できるだけ多くの皆さんが東京の MoMA デザインストアで、デザイナーコルク床の上を『歩き回りながら』、ポルトガルが誇るデザイナーの作品を楽しんでいただければと思っています。」



## APCOR（ポルトガルコルク工業会）について

APCOR はポルトガルのコルク業界を代表してコルクの普及に務めており、250 の会員はポルトガルのコルク生産の 80%、輸出の 85%を占めています。また、APCOR はコルクに付加価値を与えるため、国内外の様々なコルク普及活動に取り組んでおり、大規模な情報リソースセンターも運営しています。

## コルクについて

自然の驚異コルク - コルクは持続性 100%の再生可能な素材で、ポルトガルを含む地中海沿岸諸国に生育するコルク樹の樹皮が原料です。コルク樹の森林は国家遺産として保護され、コルク樹皮の採取は厳しい規制の下に行なわれるため木を傷つけることがなく、周辺の動植物の生息環境を支え拡大する役割を果たしています。コルクは 100%自然で、生分解性を持つ再生可能なエコ素材です。防水性、防虫性、抗アレルギー性、耐火性を備え、驚くほど耐久性や保温性、防音性も高い素材です。また、足に当たる感触も快適で、床材としてはもちろん建材一般にも理想的な素材となっています。デザインも驚くほど多様で豊富、数多くの模様、形、カット、色が提供されています。

## MoMA デザインストア

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-10-1 GYRE3F

MoMAstore.jp

## お問い合わせ

アシュトン・コンサルティング

塩加井匡 / 福井容子

03-5425-7220

apcorjapan@ashton.jp